

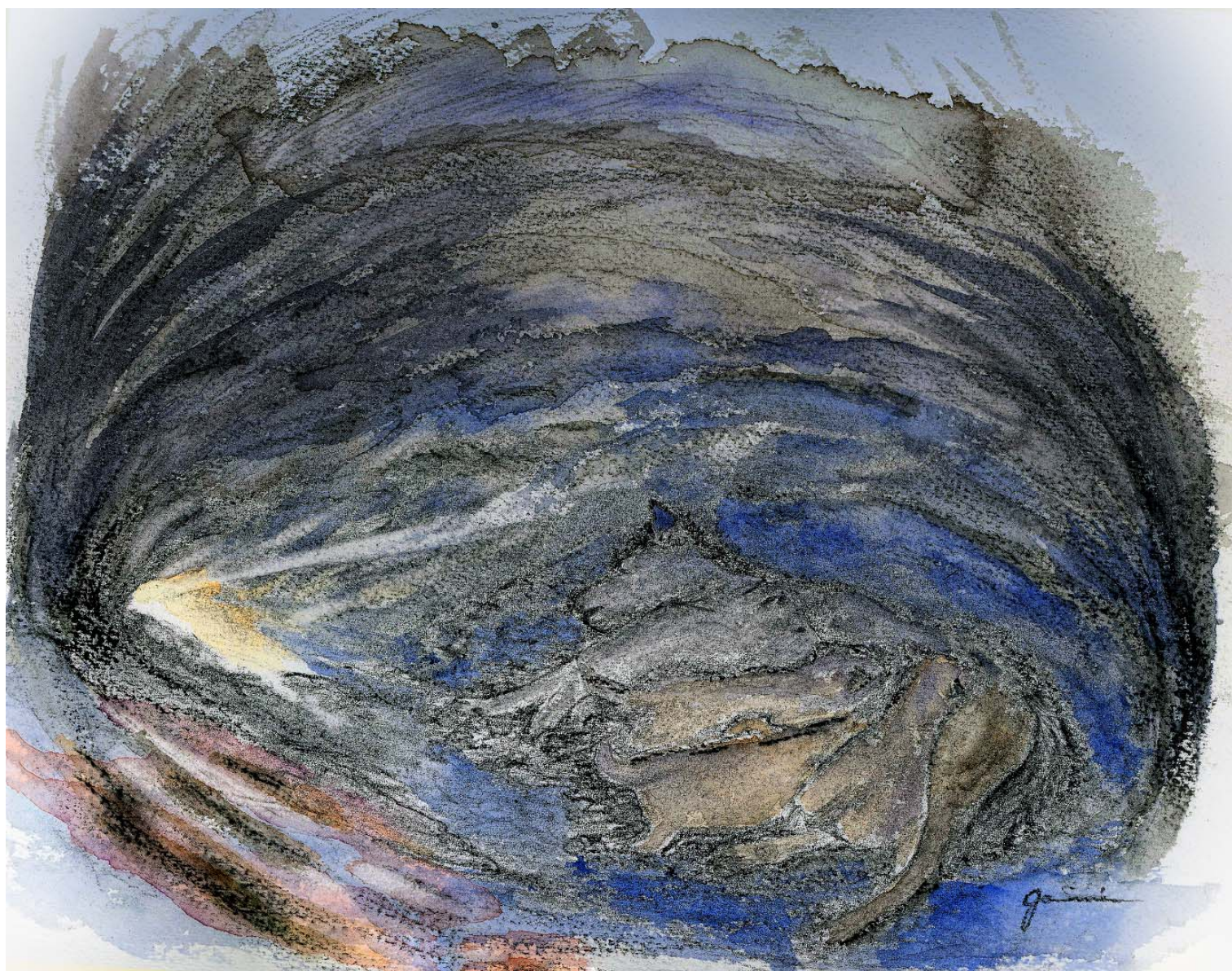
NPO 法人



2016年9月10日

第31号

Jomon Shiba



特定非営利活動法人

縄文柴犬研究センター

| | |
|---|--------------|
| 理事長就任に当たって 橘 宏 | 2 |
| 縄文柴犬研究と JSRC (歴史的な視点からの試み) 五味靖嘉 | 3 |
| シバの散歩道(30) 根深 誠 | 10 |
| 十日町市交流会報告 ☆十日町市交流会に参加して | 新潟県 田中智子 13 |
| ☆交流会に参加して | 和歌山県 土山仁美 14 |
| ☆交流会に参加して | 群馬県 荻野千恵子 16 |
| ☆愛犬のしおり | 17 |
| (北海道・橘宏、奈良県・榊井誠、愛知県・西谷繁、富山県・竹内誠一、 滋賀県・和田明、長野県・竹内節子、秋田県・松橋久敏、和歌山県・土山仁美、 群馬県・栗原明美、岩手県・佐々木俊幸、群馬県・荻野千恵子、栃木県・坂本勝、 群馬県・林すみ江) | |
| おたよりコーナー ☆新たなる草庵にお色直し! | 京都府 金 平雄 21 |
| ☆キューの近況報告 | 石川県 黒梅 明 21 |
| ☆竜太と暮らした15年(その1) | 橘 宏 22 |
| ☆縄文柴犬のこと | 京都府 梅野修身 23 |
| *MLの交信から | 24 |
| 事務所報告 | |
| ☆新入会 ☆会費 ☆仔犬登録 ☆寄贈 | 26 |

※「READYFOR?」のクラウドファンディングに公開賛同募金開始!

*急峻な日本の地形に適合し、日本人の暮らしと共生してきた文化遺産である縄文柴犬の保存と繁殖をめざす縄文柴犬研究センターの活動への賛同とご協力を訴えています。

多くの方に見ていただくために、周りの方に紹介ください。

*今号は十日町市交流会報告が特集で、多くの方からお便りをいただきました。ありがとうございます。

◆次号会誌 32号発行は 2016 年 12 月 10 日予定。原稿の締め切りは 2016 年 10 月 20 日です。

☆会誌の原稿は、編集担当の黒梅明 (〒920-1302 金沢市末町 14-60-2)、もしくは会事務所に送付いただくか、MLまたは会事務所へメールで送信ください。ぜひ、愛犬の写真も添えてください。

特定非営利活動法人 縄文柴犬研究センター

会事務所：〒014-0073 秋田県大仙市内小友字堂ノ前 119 番地 5 ☎0187-68-2976

<http://www.jomon-shiba.com/> encounter_shiba@jomon-shiba.sakura.ne.jp

郵便振替口座： 02280-2-106951

理事長就任に当たって

橋 宏

何とも間延びした挨拶となりましたが、総会を終えての帰路“どなたか適任者は考えられなかったのか”と悩むことしきりでした。

加えて「竜太」が老いぼれてきて、今回の総会への旅が最後になるだろうとの思いもあり、それも成り行き次第といった訳でした。

五味さんが元気になられて、今回の交流会にレポート「縄文柴犬の研究と JSRC—(歴史的視点からの試み)」を用意されての参加は、本当に心強いことでした。自然界の中であって、縄文柴犬の活躍がこれからの我が JSRC の発展と、多くの協力者・会員を結集することの重要さをひしひしと思わない訳にはいきません。

今後の私たちの大きな課題でもあらうと思われる、この時期に理事長として私がどれほどの力を出せるか、これは私の体力的な様々なことを考えますと、何とも心もとない次第です。

でも、五味事務局長の後任である「黒梅明」さんを始めとして、若手の方々の理事就任が大きな力を発揮され、JSRC の明るい展望が期待できます。

この間、私の周辺にはいろいろありました。ですが、地球上の様々な動きに比べたら、問題にならないことですし、気にしなければそれで済むことですが、会員の皆様には恥ずかしい次第でした。

ですが、今回の交流会への参加が一つの区切りとなりました。その為に他のことは、何とか整理する形で済ませ、参加は早くから予定に入れていましたので、無事に終えたことには担当の相澤さんや、事務局の黒梅さんを始めとして理事の皆さんの大きな力があればこそその思いを強くしたものです。

これからの JSRC 方向性には、まだまだ多くの課題が山積されています。私にとってはその流れに、ただ身を置くだけという甚だ心もとない仕儀ですが、是非とも皆さんの協力で、発展と大きな希望を生み出す

べく、共に協力していただけたらと思っております。

この北海道で、JSRC の組織づくりをと思いつながらも、果たせずに今日まで過ごしてきたことを、自分でも情けないと思っています。

こんな私ですが、今後とも皆さんの力で JSRC の大きな発展へと協力し、拡散していこうではありませんか、是非とも皆様の援助と協力をお願いします。



愛犬「未来」と(十日町市交流会会場にて)



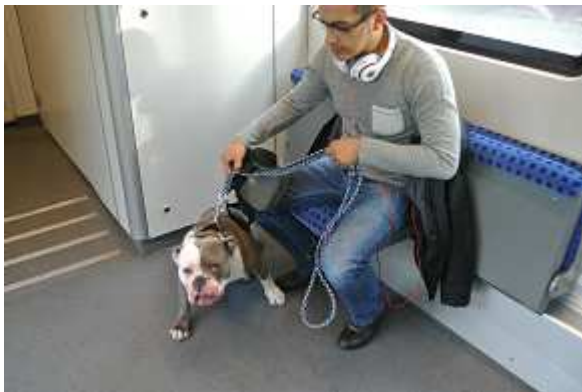
シバの散歩道 (30)

根深 誠(文筆家・釣り師・元登山家)

友人夫妻が南ドイツを旅行し、グリム兄弟ゆかりの地を訪ねた。グリム兄弟が生まれた町ハーナウと、少年時代を過ごしたシュタイナウという町である。

帰国後、そのときのみやげ話を、一杯飲みながら訊かせてもらったのだが、犬を含むペットに対するドイツと日本の、とりわけ私が住んでいる弘前という地方都市との認識、さらには人権意識の違いを痛感したというのだ。私がそうした問題について弘前市役所を相手に長年闘い続けて来た経緯を友人夫妻は知っている。それはご存知のように、この連載でもとり上げてきた。

友人夫妻がハーナウから乗車したドイツ鉄道で、夫妻は二階席にいたそうだが、犬をつれた男性が乗ってきて補助席に腰かけると、犬はすぐそばの床に行儀よく座ったそうである。



南ドイツの電車で友人が見た飼犬と飼主

行儀よくとはどういうことなのか。友人に尋ねると、あわてたりキョロキョロしたりソワソワしたりすることなく、それが当然とばかりに、飼主ともども落ち着き払っていたそうである。同様に、周囲の乗客も、珍奇な眼差しをくれたり、嫌な顔をしたりすることもなかったという。

友人は「立派な犬ですね。写真を撮っていいですか」と話しかけてから撮影し、その写真を私に送ってくれた。

飼犬も慣れたもので、そのときポーズをとってくれたような気がする、と友人は話

していた。なるほど、写真を見ると、犬の視線がこちらを向いているから、友人にはそのように見えたのだろう。

もう一例は、グリム兄弟が少年時代を過ごしたシュタイナウの町でレストランに入ったときのことである。友人夫妻は昼食をとっていた。そこへ地元の婦人が犬を二匹つれて入って来た。犬は婦人の足元に、これも行儀よく座ったそうである。



南ドイツのレストランで友人が見た飼犬と飼主

日本でも犬と同伴できるレストランがあることは訊いているが、私の住む弘前では、とてもそうはいかない。おそらく、入口付近に繋いでおいたとしても問題視されるはずである。容易に想像がつく。もしかしたら喧嘩沙汰になるかもしれない。

友人はこのときのレストランでも前回同様「立派な犬ですね。写真を撮っていいですか」と話しかけて撮影したのが、掲載の写真である。犬がピンボケしている。

友人は、この他にも飼主につれられて駅構内を歩く犬、公園を散策する犬など、ごく日常的な情景としてその姿を見かけたのだった。

私にしてみればずいぶん羨ましい。おそらく、と思うのだが、社会の体質や構造が異なるのであり、それを構成する市民の意識、及び人間関係もまた異なるのではないだろうか。民度が異質なのだろう。

* * *

朝夕、日々、シバをつれて散歩するコース

はほぼ決まっている。土淵川沿いに延びる「サイクリングロード」と呼ばれる遊歩道である。天気や体調によるが、爽やかな晴れた日の気分良好なときは歩く距離が長くなる。コースを外れて周辺のリンゴ畑を通ることもある。しかし、十中八九は遊歩道であり、途中、ベンチに腰かけて休憩することもあるので、そのときは一時間はかかる。

そして雨が降ったり、ときには安酒を飲み過ぎて宿酔の頭痛に悩まされたりするので、シバには不満足だろうが、散歩は近場で済ませることもある。



死因は何か、不思議に思う



押し潰されたカラスの死骸

散歩中、自然の景物に触れることで気分は和むが、ネットを飛び越えてくるゴルフの打球や、鳥獣の死骸を散見するのは戴け

ない。ゴルフの打球については、この連載でも述べてきたように常時目につく。危険であり、何度も何度も執拗に改善を求めてきたが、いっこうに効果がない。不愉快だから、その近辺には近づかないようにしていても、つい足を延ばしてしまい、田んぼにめり込んだり、遊歩道の脇に散らばっている打球を見て、改めて気分を害する。ときには、拾い集めて持ち帰ることもある。

改善しようとする意識が市民や行政にはないのである。明らかに怠慢のそしりは免れない、などと言って、私のようにそれを指摘することはタブーであり煙たがられる。

それにしても、鳥獣の死骸を散歩中に目にする事が多い。以前はまめに市役所や保健所に電話で連絡していたけれど、ちかごろはそれも億劫になった。



車にぶつかったのだろうか

それでわかったのだが、散歩者は多数いても連絡する人などほとんどいないらしく、死骸は何日間何週間も放置されたまま腐敗し、やがて風化する。あるいはカラスや他の動物の餌食として食い散らかされ、いつの間にか消滅している。

死因ははっきりしないが、以前の事例から察するに、事故や毒物によるものではないかと思う。そして摩訶不思議なことにそ

の究明には目をつぶり、町内の会報や市役所の広報を見ていると、飼犬が散歩中に、わが家の塀にマーキングしたとか、糞を片づけない飼犬がいるとか、飼主のマナーの悪さだけが指摘されている。

ここに至って、どうも偽善臭い。腹立たしいことに、そうした輩は身近に少なからずいる。

あるとき町内の集会所で地元選出の県会議員の活動報告会があった。質疑応答に入り、私は散歩コースの「ゴルフの打球問題」と「犬猫問題」がいつこうに改善されないことを述べた。というのは、その県議員が市会議員だったとき、私はその議員に連絡し、市議会で問題をとり上げてもらったことがあったからだ。

ところが席上にいた町会長が口を挟み、私を制した。町内の些細な問題を、何もここで県議員に言う必要はないだろうというのである。まるで脳味噌の腐った老人ではないか。私は怒りをこめてそう思った。こんなボケ老人が町内にのさばっていることが問題である。噂によると、市役所の OB だとか。乱暴狼藉を働きたい衝動に駆られ、自らを抑制するのに苦労した。

そのボケ老人が私を制して何を発言したかといえば、それこそ場違いな意見を述べたのだ。

町内の外れのほうに弘前高校の野球の練習場があるのだが、ちかごろ「後輩たち」が弱くなったと嘆いたのである。夏の甲子園大会がはじまり早々と敗退していた。訊いていて、こいつは骨の髄から暗愚な老人だと、またまた怒りが込み上げてきた。

その県議員も弘前高校の OB であり、「おめえも弘高卒だべ」と念を押してから「弱くなった」と溜息交じりで言った。

よくよく訊いていると、自分が弘前高校の OB であることを鼻にかけているふしを感じられた。何となくくだらない人格ではないかと呆れ返ってしまった。

* * *

散歩中に出会ったとき軽く挨拶を交わす、プードルをつれたオバサンが、そのとき沈

鬱な表情をしながら独りで歩いていた。どうしたのかと思って尋ねると、散歩中にラブラドルに襲われて耳を噛み千切られ、入院しているとのこと。

えっ、と驚いて、いつですか、と訊くと、昨日だという。

それから何日かして、頭部に包帯を巻いたプードルをつれてオバサンは歩いていた。入院や治療に関わる費用は加害者の側が支払ったということだが、ことはそれだけでは済まされない。しかし、「知っている人だから」ということで穏便に取り計らったそうである。

以前にくらべ、飼犬をつれた散歩者は増加しているようだ。シバと散歩するようになって十二年、そのように見える。たぶん、間違いないだろう。

それに比例して事故も増えつつあるようだ。犬の嫌いな住民がいても可笑しくはないのだが、だからといって毒物を巻いたりするのは、正気の沙汰ではない。

シバより一歳若い柴犬がいて、婦人がつれて散歩する姿を見かけなくなったと思っていたら急死したのだという。散歩中に毒物を食べたのが原因のようだと近所の噂になっていた。どうも穏やかならぬ社会である。

先日、街路樹の根元にガラスの破片が散乱しているのを見て、何日間か腑に落ちなかったのだが、犬をマーキングを嫌う住民の仕業と思えば納得がいく。事実、私はそのように理解したのだった。

